

【令和2年度第1回】江差町総合計画等検証委員会 議事録

開催日時 令和2年11月30日（月）  
午後1時30分～午後3時50分  
開催場所 江差町役場 3階第2委員会室

[会議次第]

1 開会

2 町長挨拶 江差町長 照井 誉之介

3 会議成立宣言 (江差町総合計画等検証委員会設置要綱第6条第2項)

4 委員長及び副委員長選出 (江差町総合計画等検証委員会設置要綱第5条第1項)

委員長及び副委員長の選出については、設置要綱では委員の互選によりこれを定めることとなっているが、委員のうちから事務局提案との意見があり、全員その選出方法に異論なく賛成された。このため、事務局から次の者に委員長及び副委員長へ就任いただきたい旨を提案したところ、満場一致で承認された。

委員長 江差商工会 会長 赤石 智恵美氏

副委員長 北海道教育大学函館校国際地域学科 准教授 古地 順一郎氏

5 委員長・副委員長挨拶

委員長 江差商工会 会長 赤石 智恵美

副委員長 北海道教育大学函館校国際地域学科 准教授 古地 順一郎

6 議長選出 (江差町総合計画等検証委員会設置要綱第6条第1項)

7 議事

(1) 第6次江差町総合計画（第2期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略）令和2年度実施計画案について（取組方針、工程等の検証）

【説明資料】

- ① 第6次江差町総合計画（第2期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略）令和2年度実施計画（案）
- ② 第6次江差町総合計画実施計画に関する意見への回答書
- ③ [製本版] 第6次江差町総合計画（第2期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略）

【説明順】

本検証委員会の開催前に会議資料は事前配布しているため、詳細は割愛し、主要施策の概要を一括して、各所管課より説明した。

説明順：まちづくり推進課 → 産業振興課 → 追分観光課 → 建設水道課  
→ 財政課 → 社会教育課

(2) 質疑応答及び意見交換（検証作業）

資料説明の終了後、一括して検証作業としての質疑応答及び意見交換を行った。

8 その他

9 閉会

[出席者]

- ◎委員
- |      |  |
|------|--|
| 委員長  | 赤石 智恵美   |
| 副委員長 | 古地 順一郎   |
| 委員   | 浅見 尚資, 石岡 典子, 小笠原 裕章, 金子 剛, 久米 早苗,<br>庄司 寛, 高岡 広明, 田上 香, 田畑 昌伸, 中島 晶子, |
| 委任状  | 飯田 隆志, 萩原 香澄, 幅口 一路, 堀田 俊一, 三上 修吾<br>以上17名 (全20名中)                     |
- ◎町
- |          |  |
|----------|--|
|          | 照井 誉之介 <sup>町長</sup>   |
| まちづくり推進課 | 尾山 徹 <sup>課長</sup> , 長尾 恵一 <sup>主幹</sup> , 伊藤 公 <sup>まちづくり推進係長</sup> |
| 産業振興課    | 出崎 雄司 <sup>課長</sup>  |
| 追分観光課    | 安田 克臣 <sup>課長</sup>  |
| 建設水道課    | 岸田 雄治 <sup>課長</sup>  |
| 財政課      | 斉藤 敏己 <sup>課長</sup>  |
- ◎町教育委員会
- |       |                     |
|-------|---------------------|
| 社会教育課 | 大坂 敏文 <sup>課長</sup> |
|-------|---------------------|
- 以上9名
- 以上、合計26名

---

議 事 録

(午後1時30分)

1 開会

2 町長挨拶

(照井町長)

皆さんこんにちは。本日は、令和2年度第1回江差町総合計画等検証委員会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。コロナの長引く影響が続いております。特に檜山管内では、奥尻町でクラスターが発生し感染が拡大しております。海岸にあるフェリーでつながれた我がまちも、他人事ではないというふうに思っております。しっかり感染予防の対策をしながら、日常の生活を送らなければなりません。皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて今回は、この総合計画策定をして、その検証ということでございます。まさに今年度は、コロナで始まった、そういう年度だったと思っております。総合計画、あるいは地方創生の総合戦略をしっかり進めていくことが、まちづくりに重要であるという認識を持っています。そういう中でコロナの状況を踏まえて、その影響をどう次のステージにつなげていくか、このコロナを社会変革につなげていくということも求められているのではないかな、と思っております。その中では、各産業や各分野に精通した委員の皆さんのご意見をしっかり反映した中で、この総合計画、総合戦略を着実に進めていかなければなりません。明確な目標を定めた中で、まちづくりの方針を見定めていきたいと思っております。

ぜひ皆様から、忌憚のないご意見をお聞かせ願ひながら、この総合計画や総合戦略が実のあるものにしていきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願い申し上げます。年の瀬を迎え、インフルエンザ、コロナ、いろんな状況がありますが、皆様も体調管理にぜひ十分に気をつけられて、良い年の瀬を迎えられますよう心からご祈念申し上げます。本日はご出席、誠にありがとうございます。よろしくお願い申し上げます。

### 3 会議成立宣言

(事務局)

江差町総合計画等検証委員会設置要綱第6条第2項の規定に基づき、委員の半数以上の出席があるため会議が成立することを宣言した。

### 4 委員長及び副委員長選出

(事務局)

江差町総合計画等検証委員会設置要綱第5条第1項の規定に基づき、委員会に委員長及び副委員長1名を置き、委員のうちから互選によりこれを定める旨を説明し、互選の方法を諮った。

委員のうちから、事務局提案との意見があったため全体に諮ったところ、異論なく賛成された。

このため事務局から、委員長に江差商工会会長の赤石 智恵美氏、副委員長に北海道教育大学函館校国際地域学科准教授の古地 順一郎氏へ就任いただきたい旨を提案したところ、満場一致で承認された。

### 5 委員長及び副委員長挨拶

(赤石委員長)

皆様、改めましてこんにちは。策定審議会から引き続きまして、検証委員会の委員長を承ることになりました赤石でございます。力不足の点、多々あると思っておりますけれども、どうぞよろしくお願いいたします。思い起こしますと、策定審議会の最終日は今年の2月21日でありました。その時に、照井町長に答申書をお渡しさせていただき、またその後は懇親会もございました。ところが、その後すぐに新型コロナウイルス感染拡大が確認され、大人数での会議が実施することが叶わなくなり、それがずっと続いておりました。まさに、間一髪ギリギリゴール、セーフで総合計画が完成したということでございます。また、キャッチフレーズにつきましても、委員の皆様から身体を絞るようにして気持ちを言葉にさせていただき、最後には、古地先生にお手伝いをいただきまして、無事に整うことが出来ました。委員の皆様のおかげだと思います。この場をお借りしまして、感謝申し上げます。

その後、実施計画がこのように作成されてまいりました。今日は、6つの課について計画を説明していただき、検証をしていただくことになっております。残りの6つの課につきましては、12月18日に再度検証委員会を開催することになっております。一般の町民の立場におりました時には、行政、役場の仕事というのが、なかなかわかりづらいところがございますが、このようにたくさんの資料を見させていただくことによって、江差町の問題やこれからどうやっていかなければならないのかということが、詳らかにわかってきたような気がしているところでございます。

この先3年間の江差町の計画であります。キャッチフレーズに沿っているのかどうか、江差町の為になるのかどうかを、皆様に検証していただく場であります。中には、まだまだ時間が必要なもの、何度も相談を重ねなければならないもの、待たなしのもの、すぐに実行出来るものなど、様々な計

画が混ざっているのかなと思いますが、これからの江差町が着実に前に進んでいくために、実のある計画になりますように、どうぞ皆様からご意見を頂戴出来れば良いのかなと思っております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

(古地副委員長)

皆さんこんにちは。策定審議会から引き続きまして、副委員長を拝命いたしました。今後もよろしくお願いいたします。以前も申し上げましたけれども、皆さんに、この総合計画を育てていただきたいというお話をさせていただきました。何度も何度も、そのことを申し上げたと思うんですけども、いよいよ生み出した総合計画を育てる段階に入ってまいりました。やはり、これから10年間、今回は最初の3年間の実施計画ですけれども、長期にわたりますが、末永くこれを見守って、さらに育てていく。ここにいらっしゃる方だけで育てていくわけではなくて、皆さんがそれぞれのお立場で周りの人にお話をさせていただきながら、みんなの総合計画にしていくということが、これからの歩みにとって、非常に重要なことだと考えております。

私が研究しております、函館の姉妹都市ですけれどもハリファックス（カナダ・ノバスコシア州の州都）が、今、新しい動きをいろいろと見せているんですけれども、そのもとになったのが、ちょっと総合計画とは異なるかもしれませんが、経済戦略を地元の企業さん達が作って、それをハリファックス市議会で市の戦略として承認し、ビジネス界の自分たちで作った戦略を実施していくことで、官民一体となって作ったという経緯があります。それによって、まちが変わっていったという姿を、私は見させていただいて、江差町の場合は、まさにこれは町民総出で作った総合計画という位置づけになると思いますので、それを少しずつ広げていって、みんなで育てていくという形になっていけば、本当に「自分たちごとのまちづくり」につながっていくんじゃないかと思えます。

先ほど赤石委員長もおっしゃいましたけれども、もちろん、すぐ結果が出るもの、時間がかかるものもあると思います。でも、そういうものも、きちっと意識をしながら取り組んでいくことが大事なんでしょうと思いますし、皆さんのおかげで良いキャッチフレーズが出来たと思います。そのそれぞれのコンセプトを、そういうところに肉付けをしていくというのが、この実施計画につながっていくと思いますので、そのあたりも皆さんの知恵をお借りしながら、一緒に考えていければというふうに思っております。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。どうもありがとうございました。

(ここで照井町長は、別用務のため退席した。)

## 6 議長選出

(事務局)

江差町総合計画等検証委員会設置要綱第6条第1項の規定に基づき、委員長が議長になることを説明した。

(赤石委員長)

委員長である赤石 智恵美氏が議長に就任した。

(午後1時43分)

## 7 議事

- (1) 第6次江差町総合計画（第2期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略）令和2年度実施計画案について（取組方針、工程等の検証）

（赤石議長）

第6次江差町総合計画（第2期江差町まち・ひと・しごと創生総合戦略）令和2年度実施計画案について、各課より説明を求めた。

### 【説明順】

- ① まちづくり推進課 尾山課長
- ② 産業振興課 出崎課長
- ③ 追分観光課 安田課長
- ④ 建設水道課 岸田課長
- ⑤ 財政課 斉藤課長
- ⑥ 社会教育課 大坂課長

（まちづくり推進課長）

私から、まちづくり推進課所管の事業について、説明させていただきます。

25ページをお開きください。商店街の拠点化として、旧江光ビル跡地に関する今後の3か年の事業についてです。9月議会で照井町長から「今年度中には、各関係者の皆さんにどんなものを整備していくのか、しっかり示して事業化していきたい。」ということ伝えてあります。町としては、令和3年度に基本計画を策定しまして、令和4年度実施設計ということで考えています。

続いて36ページをお開き下さい。北の江の島構想についてです。町としては、出来るだけ早期に「北の江の島構想」を前へ進めていきたいという意思を持って、今年も多く事業者と、運営まで見通した意見交換や協議を進めて、事業の着手に向けた動きを取ってきましたけれども、残念ながらいろいろな課題の中で、思うように前に進めないという状況がございます。当初は、来年度に基本設計という予定でしたけれども、現時点では、来年度が平成29年度に策定した構想を修正しながら関係機関としっかり協議していく年、令和4年度が基本設計、実施設計はそれ以降というスケジュールで考えております。

続きまして117ページ。面的な交通ネットワークの再構築です。皆さん、普段の生活の中で、函館バスさんの乗車率の低さを見ていただいていると思います。また、高齢化が進んで、いろんな形での交通体系を見直していかなければならないという状況になってきています。そういう中で、町内全体の交通体系、函バスさん、あるいはタクシー、福祉有償運送など、そういったまちの交通資源を活かしながら、住民がより活用しやすい交通体系を、来年度と再来年度をかけて検討していくことになっていきます。

私の方からはこの3点について、皆さんに説明をさせていただきました。以上です。

（赤石議長）

ありがとうございました。次に産業振興課長お願いいたします。

(産業振興課長)

私からは、所管する範囲が広いので、要点を絞り説明させていただきます。

資料11ページをご覧ください。北部地区の農地整備です。皆さんには、前のホワイトボードをご覧くださいと思います。机上には、同じ資料も用意しています。道営土地改良事業の進捗状況とある資料です。江差町の農地ですが、894ヘクタールというのが、統計上、江差町の農地ということで位置づけられておりますが、北部地区にその内の700ヘクタールが集約されております。昭和50年代に基盤整備ということで、30アールを1区画とする田んぼを作っていたのですが、30年が経ち老朽化が進み、用排水路も錆びたりしてきたということで、今般、第1工区として水堀地区を、来年度から9年間で120ヘクタールの土地整備を実施したいと思っております。資料「農業競争力強化農地整備事業（水堀地区）事業イメージ」を見てください。実は、今現在、この地区で28戸の農家の方々が作付けしておりますが、9年後、水堀地区が完了した時点では7、8軒の農家の方々がここで耕作をしている状況が見込まれるということです。農地の区画を拡大したり、用排水路を整備することで、基本的な意義としては、作業効率を向上させるということ、投下労働時間の短縮、これによる生産コストの低減。それと、圃場が良くなるものですから、農作物の高収量が確保されるということです。こういった観点から、生産者の所得の向上が見込まれるということです。

スマート農業というものも、総合戦略で推進することにはしていますが、スマート農業というのは、農業の大規模化もそうですが、生産性の向上。もう一つは、法人化という言葉は一般には使いますが、私はあえて工業化という言葉を使いたいと思っております。これからは、農業というのが一つの工業ということで位置づけられていくんだろうなという考えからです。

次に、産業振興課所管の新型コロナウイルス対策です。資料は「産業振興課所管“新型コロナウイルス感染症拡大防止対策事業”」です。私の今年4月の産業振興課への異動は、コロナ対策で始まったというのが実態です。3月に行った「まちの飲食店応援券発行事業」からこの間、10本の補正予算を組んでいただきまして、商店街の皆さんとかあるいは漁業者、そういった方々に経営支援をしてきたところです。あと、国の方でもセーフティネット保障ということで、保障料だとか利子だとか、そういう特典付きの貸し付けがありまして、それらの認定事務も当課で行っております。

次に林業です。林業では、森林環境譲与税の用途がまだ決まっておりました。これにつきましては、平成31年度の税制改正で森林環境譲与税が創設されましたが、これは町有林とか国有林じゃなくて、私有林が所有者不明とか、あるいは山を持っていて手入れしたいけれどお金がないとか、こういった人たちに税を使って山を管理してもらいましょうというものです。なかなか譲与税の用途が決まっておりましたが、来年度からまずは、森林所有者の意向確認をしたいと思っております。山をどうしたいですか、山を整備して少しでも間伐していくらかでもお金にしたいですかなど、そういう調査に来年から手掛けていきたいと思っております。

もう一方で、江差は北限のヒバ産地なので、ヒバを活用したものが出来ないかということで、間伐されたヒバを使って、例えば公共施設のいろいろな看板をヒバに変えるとか、結婚した方々にヒバの表札をプレゼントするとか、そういった取り組みを検討してまいりたいと考えております。

次に水産です。先般、若手の中堅漁業者を連れて青森県の深浦町に行ってまいりました。目的は、ニジマスの養殖を見に行きましようということで、海中飼育の現場を見てきました。雑駁な感想ですが、なかなか漁業者には定着しないだろうというのが正直なところです。これは、あくまでも会社経営という一つの括りでなければ、水温の管理だとか、種苗の管理、死んだ魚の処理、流通そういったことをやるとなると、漁業者が担うには無理な部分が多いと考えられました。

漁業者の方といろいろ話をしてきましたが、実はこのコロナ禍の中でも江差のナマコはまだ値が5,000円くらいをキープしています。ほかの地区は3,000円、2,000円と値崩れしていますが、やっぱり良いものは、きちんと値がつけられているということなんです。ですから、このナマコをAのモノをSに上げるとか、AAAにするとか、そうなるような資源管理を含めた取り組み、今やっているものをもっと少し光らせるというようなことを、まずはやっていけたらなと思っております。

もう一つ、農水産物のブランド化という言葉は毎回のように出ますが、なかなか小さな生産規模でブランド化を図ることは厳しいんです。ですが、基盤整備を行うことによって、高品質で高栄養で高収量といった高収益作物が、いろんな場所で生まれていくんだろうなというのが、予測としてあります。

それともう一つは、流通を変えていかなければならないということです。簡単にいうと、例えば蝦夷山海（えぞさんかい）という日本酒が、江差の酒米で作られています。この蝦夷山海が爆発的に売れると逆に、「この蝦夷山海の使っている米はどこですか」ということになります。そういう逆のパターンも少し考えていかなければならないだろうなと思っております。そこは、新聞でも見ましたが、五勝手屋さんの復刻羊羹の取り組みが始まっています。これを皮切りに、例えば江差でとれた小豆が、江差のいろんな和菓子店ですべて取り扱うとなると、これはまた面白いストーリーが出来るんだろうなと思っております。こういうことが、きっと産地づくりなんだろうなと思っております。

それとニシンの活用です。江差のニシンについては、脂がないとか、小骨がうるさいとかいろんな評価や意見があります。道教大函館校にも「ニシンチャレンジカップ」とか、いろいろと協力してもらっていますが、一つはニシン料理の革命とかチャレンジをしたいと思います。ニシン料理の王道といえば、今のところ三平汁とか甘露煮なんでしょうけど、挑戦っていう部分では、ニシンをハンバーグにしたりサンドイッチにしたり、いろんな使い方を模索しながら、王道と挑戦というキーワードで少し手掛けられればと思っております。

最後に商業振興です。今回委員の質問にもありましたが、非常に地域経済の動向は厳しいところです。現在、江差商工会の皆さんが、経営発達支援事業のメニューの中でいろいろと取り組みをされております。この中で、地域経済動向調査というものを行うということです。小規模事業者の経営実態を直接ヒアリングする、そういったミクロ的な視点と、国のビッグデータ「RESAS」を活用した経済動向分析。こういったマクロ的な分析も行うということです。そこに、江差町が持っている情報を共有しながら、PDCAを回していくと、また新たな事業展開が出来るんじゃないかと期待しております。

雇用の状況ですが、最新のハローワークを見ても江差町は求人倍率が1.4%ということで、仕事はあるんですが、仕事を選んでいるのではないかと、といった状況が続いていることを報告して終わりたいと思います。以上です。

(赤石議長)

次に追分観光課長お願いいたします。

(追分観光課長)

それでは、私から追分観光課所管の部分について説明をさせていただきます。

計画書36ページをご覧ください。ページ下段になりますが、追分観光課にとしましては、今年度いろんな形で、このコロナの影響で非常に観光客の少ない中、観光に非常に大きな影響を与えていると

いう状況で今後取り組んでいくもののうち、ひとつ大きな部分ですが、DMOの組織運営強化という部分が大きな課題になってくると思っております。平成30年度から創設され、昨年から本格的な運用をしてきた中で、組織体制の強化というところが今後の大きなものになってくると思っております。

また、ワンストップ窓口の整備という大きなものもひとつあります。現段階では、まず旅行、応募、相談の整備ですが、今後クレジット決済等含めた販売ですとか、ここですべてを一括でやり取り出来るような形のものをつくっていくということで、今年度は応募相談フォームを作りながら、来年度以降これらを評価させていただく形で、現在、みらい機構と進めているところです。

あわせてDMOの強化ということになりますと、今、候補法人に登録をされまして、それぞれの指標を作りながら、来年度、何とか本登録に向けた動きということで、現在進めております。中長期の3か年計画の策定ということで今現在進めておりまして、みらい機構の職員からボトムアップで、それぞれ来年以降、こういった動きをしていくのかというアクションプランの策定を進めています。これにつきましては、今、各職員から来年度目標を挙げてもらい素案を作っております、来月これらをまちづくり協議会に諮りながら、来年度に向けて策定を進めていくこととなっています。これらをもとに、今後、事業を進めていくということで考えています。

続きまして、37ページですが、日本遺産の活用です。先ほど産業振興課長から、ニシンの活用という部分もありましたけれども、日本遺産は、ニシンをベースにするということで、これまで日本遺産登録されてから、様々な助成金を活用しているような取り組みをしてきました。これを今後、どうやって活かしていくのかということになりますが、現在作っているニシンのぼりにつきましても、活用を継続しながら、それらを今度は、日本遺産というブランドを活かした旅行商品を作りながら、外から人を呼び込むためのツールとして、ブランドを活かしていくことを継続していきたいと考えています。

江差追分の部分ですが、江差追分につきましても、今年度、全国大会が中止になったという状況がありますが、その中で今年の臨時交付金も活用しながらインターネットでのオンライン指導等も出来たということで、これらを活用しながら来年度以降も継続していきたいと考えております。また、追分条例の関係では、出前講座も考えていましたが、コロナ禍で出来ませんでしたので、これは次年度以降、また考えていきたいと思っております。

続いて38ページになりますが、「江差を磨く」というところです。大学等との連携ということで、DMOの確立に向けてとありますが、こちらは経済波及効果がどれだけあるか。これはKPIの策定にも結び付くことで、実際に観光の経済波及効果がどれだけあるのかということ、具体的に調査をしましょうと進めているものです。今年度は、教育大学の協力をいただきながら、まずはそれぞれの事業者に対する調査の中身、こういったものが良いのかをまとめ上げ、各事業者の参加意思の醸成を図っていく。そして来年度、実際にそれぞれの事業者に調査をしまして、観光による経済波及が、どれだけ町内で回っているのかを見える化していきたいと考えています。これらをもとに、今後の施策に役立てていきたいと考えています。

また、ぷらっとの商品開発では、令和2年度の「カニまん」ですとか、新たに浅野屋さんの「貝殻サブレ」を、ぷらっとで販売しておりますけれども、その魅力をどうやって上げていくかということや、地域の新たな商品開発を考えていますので、これらも含めて、毎年何らかの形で魅力発信が出来るような開発をしていきたいと考えております。

39ページ、「江差を発信する」ですが、情報コンテンツをいかにして動かすか、先ほどのポータルサイト、ワンストップ窓口もありますが、もう一つはSNSを活用した情報発信ということで、今年度、江差観光コンベンション協会では、「夕陽」を題材にしたSNSでのフォトコンテストを行っており

ます。このSNSでの発信が、情報の拡散には非常に有効であると考えていまして、これらの活用策を突き詰めていきたいと思っています。

41ページ、観光戦略書の着実な実行です。先ほど江差観光みらい機構のアクションプランの話でもしましたが、町の6次総合計画に合わせまして、現在、こういった形で来年度進めていくかということの積み上げをしているところです。大きな部分で言いますと、先ほどのワンストップ窓口と体験観光の充実を、どうやって昇華させ旅行商品に結びつけて、稼ぐ観光を作っていくかというところを少し進めていきたいと考えています。雑駁ですけれども、終わらせていただきます。以上です。

(赤石議長)

次に建設水道課長お願いいたします。

(建設水道課長)

私から建設水道課所管の施策を説明します。

104ページ、住宅リフォームプレミアム商品券事業です。本事業は、住環境の向上や省エネ対策、地域経済の活性化などを目的に事業実施してきたところで、5万円の商品券が4万円で購入出来る商品券となっています。事業期間については、当初、平成27年度から平成31年度までの5か年の事業として取り進めてまいりましたが、これまで毎年、発行総額5,000万円が満額申請となるなど、住民ニーズが依然として高いことや消費税増税後の景気対策などの観点から、令和3年度までの2か年の事業延伸を図りました。本年度も、当初の発行総額を3,500万円としてスタートしましたが、新型コロナウイルスの感染拡大による景気対策なども考慮して、年度途中に1,000万円を補正し、発行総額を4,500万円に増額しました。商品券については既に完売しており、残り数件の事業完了を待つばかりとなっております。これまで6か年の事業実績は、実施件数が延べ456件、事業費総額が約4億10万円となっております。

108ページ、江差町橋梁長寿命化修繕です。江差町が管理する橋梁は現在59橋ありますが、これまで国の施策に基づいて、平成24年度に全橋梁の点検調査を実施し評価を行った上で、平成25年度においては「橋梁長寿命化修繕計画」の策定を行ってまいりました。その後、5年に一度の点検調査を経まして、平成30年度に一度、計画の見直しを行いました。現在は、この計画に基づいて事業を実施しています。事業の実施にあたりましては、社会資本整備総合交付金など国からの補助金を活用して実施しています。これまでの実績では、計画上の修繕が必要な橋梁は15橋、その内、今年度修繕が完了する橋梁を含め、4橋の橋梁の修繕工事が完了します。今後の予定につきましては、残りの11橋うち椴川町の第3椴川橋について、令和元年度の詳細の調査設計を実施したところ、腐食による損傷が著しいことから架け換えとなったところであり、本年度より用地取得及び物件補償などを実施しております。第3椴川橋の事業実施計画年度及び事業費は、国からの予算配分の状況により変化しますが、令和元年度から令和5年度の5か年を予定しており、事業費につきましては現段階で約5億5,000万円程度と試算しています。

122ページ、水道施設の再編です。水道事業のこれまでの主な取組状況は、今後の給水人口の減少などを見据えて、水道施設の効率的な運用を図る観点から、平成27年度に水道施設の統廃合等のスケジュールなどを具体的に示した「江差町水道事業再構築計画」の策定を行ってきました。この間、この計画に基づいて町内4箇所の浄水場のうち、水道バイパス管の整備により早期に対応が可能であった高区浄水場の休止を平成27年度に実施しております。現在は、実施計画にも記載していますが、五厘

沢浄水場の休止に向けた計装設備の移設にかかる設計、滅菌施設の整備に向けた取り組みを行っています。これに関して、今の予定では、令和3年度には五厘沢浄水場の休止が可能となる見込みです。

同じく122ページ、下水道の整備～ストックマネジメント計画に基づく機械・電気設備更新です。公共下水道の「ストックマネジメント計画」、下水道施設の長寿命化計画にあたりますが、平成30年度に計画を策定して、現在、この計画に基づいて取り進めています。下水道施設については、平成14年度の供用開始から18年が経過しており、耐用年数を超えている設備も相当数あります。これらの機械設備について、計画に基づき順次更新していくものです。事業の実施にあたりましては、これもまた同様に、社会資本整備総合交付金事業を活用しており、現在は、下水道管理センターの中央監視装置の更新工事を実施しています。事業期間については令和元年度から令和3年度、事業費については1億3,000万円程度となる見込みです。以上、よろしく願いいたします。

(赤石議長)

次に財政課長お願いいたします。

(財政課長)

私から財政課所管の施策を説明します。

88ページ、分野別施策の(17)「コミュニティ」のうち、90ページの「集会施設などの適正な維持管理の推進」が財政課の所管となります。方針と取組工程としては、引き続き適正な維持管理に努めることとしています。

103ページ、分野別施策の(20)「住宅・住環境」のうち、町営住宅に関してを財政課が所管していません。取組方針としては、老朽化が進む町営住宅の統廃合も含めた建て替えと、それらも視野に入れた管理戸数の適正化、長寿命化を目的とした補修工事の実施としています。管理戸数の適正化に関しては、人口規模に見合った住宅戸数の検討と用途廃止や統合、あるいは建て替えによる適正な戸数への集約を図ってまいります。長寿命化改修に関しては、建物の長寿命化に資するような補修工事の実施を進めてまいります。工程としては、本年度、令和3年度から令和12年度までの10年間の町営住宅の管理方針を定める「長寿命化計画」を策定中で、その中で管理戸数と団地別の方向性を検討中であり、長寿命化改修については、南が丘団地の屋根・外壁の大規模補修を実施しており、令和3年度に第4団地2棟10戸を予定しています。以降の長寿命化改修については、長寿命化計画の策定の中で検討していくこととしております。

106ページ、その他の公共賃貸住宅の管理です。これは、民間賃貸住宅を借り上げて公的住宅とすること、適正管理戸数の手法の一つとして視野に入れてみたいと考えていたものです。実際には、現在、そのような住宅はありませんが、記述自体、町営住宅と同様の内容となってしまうので、修正させていただきたいと思います。主な事業に、「町営住宅と連動した戸数管理」とありますが、民間住宅の借り上げを実施した場合、それらも含めた総体的な数で管理していくこととなりますので、そのような表記としています。また括弧内に「良質な住宅環境の整備」とありますが、これは老朽化している町営住宅を廃止して、民間賃貸住宅の借り上げをするほうが住環境の向上となるので、そのように記述したところです。

133ページの分野別施策(27)「公園」です。取組方針としては、遊具や設備などの安全性・快適性・景観等の確保を図ってまいります。また、北部地区の子どもの遊び場の確保を検討します。取り組みの工程としては、本年度、遊具や設備の設置・更新を検討しているところです。公園整備のニーズが

ある一方で、学校の遊具の活用も言われていますので、学校の遊具とともに、具体的にどこの何を更新し、何を整備していくかの方針を定め、翌年度以降から進めていくこととしています。

143ページ、行財政運営です。財政課の取組方針としては、持続可能な財政運営、将来においても破綻しないような財政の構築と事務事業の見直しなどを進めてまいります。また、貸借対照表などの財務書類を活用した課題の把握に努めてまいります。取り組みの工程としては、長期借入金の繰上償還を継続して取り組むこと、今後の見通しも含めた財政運営方針の公表を進めていきます。財政運営方針の財政見通しについては、内部的なものは策定していますが、今年実施している国勢調査人口が見通しに大きく影響することもありますので、国調人口がある程度の見通しがついてから、見通しを推計し、公表していくように努めていきたいと考えています。以上です。よろしくお願いいたします。

(赤石議長)

次に社会教育課長お願いいたします。

(社会教育課長)

社会教育は、少年から高齢者まで、生まれてから亡くなるまでといたしますが、幅広く事業を展開しておりますが、他課にわたっての計画もありますので、そこも掻い摘んで説明させていただきます。

まず46ページをお開き下さい。46ページの「子ども・子育て支援」、担当課は町民福祉課になっておりますが、47ページで子どもの未来応援という施策があります。この主な事業の中で「子どもの多様な体験への支援」という内容があります。令和2年度に「冒険王クラブの展開」とありますが、社会教育では子どもたちの多様な自然体験、または親子と一緒にした体験事業、こういう講座教室をこれまでも展開しておりますし、今後も引き続き展開していく予定です。

次に48ページです。青少年健全育成の推進です。青少年健全育成の推進については、「地域住民や関係機関の相互連携による事業の情報収集」。皆さんもご存じの「子ども110番の家」というステッカーが貼られていると思います。これは、青少年健全育成会議が、社会教育が事務局となって、この事業を行っています。また「下校見回り活動の実施」とは、江差中学校区、それと江差北中学校区、要するに市街地と北部地区、この2か所に青少年の健全育成協議会を組織して、子どもたちの下校の見守りの推進を行っているところです。また「生活リズムチェックシートの実施」というのは、全小中学校の子どもたちに、夏休み・冬休み中の食事についてどうしているか、または学習勉強時間がどのくらいあるのか、睡眠がどの程度あるのか、遊びにどの程度の時間を要しているのか。この生活リズムチェックを各小中学校年2回やって、その情報を学校にフィードバックしていく。この中身によって、例えばテレビゲームに年間どの程度時間を使っているか、勉強はどの程度やっているかという統計をとって、先生方に指導の目安にさせていただいています。

次に82ページをお開き下さい。分野別施策(16)社会教育です。まず、現状と課題について説明いたします。重点課題の隣に継続課題とあります。この継続課題が、今後、総合計画の中で継続的に進めなければならない課題だと思っております。その一点として、「老朽化が進む社会教育施設の長寿命化計画の策定」。これは令和2年度で策定が終わります。その策定に基づいて修繕計画を立てていきたい。この社会教育施設の長寿命化というのは、平成元年度に建設された江差町文化会館、江差町運動公園、運動公園のうち野球場、テニスコート、多目的広場、これらについても計画的な修繕計画を立てていかなければならないと思っております。また、水堀にあります町民プール。平成7年度に建設されております。非常に古くなっているプールです。このプールのあり方についてもこの計画に基づいてど

のように維持していくのか、今後、必要になってくると思います。

また、朝日にあります体育館、朝日小学校の旧体育館。これは今、江差町の町民体育館という名称で維持しております。この朝日の町民体育館についても、今後どうしていったらいいのか、重要な課題だと思っています。そこで、「新たな総合体育館建設計画の是非の検討」ということです。建設を計画するというではありません。これは、町民ニーズの把握も含めながら、全体的に財政的なこともありますし、みんなで考えていかなければならない課題の一つとっております。

その隣に「図書館検索システムの導入」。江差町の図書館は、文化会館の中に併設されており、平成元年度に開館しております。現在66,000冊蔵書があります。いわゆるこの検索システムというのは、スマホでもネットでも蔵書が検索出来て、借りたり返したり出来るシステムのことです。66,000冊の蔵書がある江差町ですが、まだ導入されておられません。ですからこれについては、今後、総合計画の中でいろいろ議論をしていかなければならないかなと思っています。

次に、「文化遺産を活用したふるさと江差に心の向く教育の継続的な取り組み」です。この「ふるさと江差に心の向く教育」というのは、各小中学校全部に江差追分の授業は全学校で浸透しております。また、郷土芸能。南が丘小学校は「江差沖上げ音頭」と「鮫踊り」、江差小学校は「江差餅つき囃子」、江差北小中学校は「土場の獅子舞」。各学校、郷土芸能を総合学習の時間帯、または社会の時間帯などを利用して、年間多彩なプログラムを展開しているところです。これについても協力してやっていく必要があるかと思えます。

あとは文化財。町内に様々な文化財があります。指定の文化財もあれば、未指定の文化遺産も数多くあります。これについては、歴史文化基本構想の構想に則って、その指定・未指定については把握をし、また今後どのように活用していくかということを検討していく形になります。

83ページから個別の施策が掲載されていますけれども、今、それらを網羅した説明をしたところです。以上、よろしくお願いいたします。

(赤石議長)

ありがとうございました。各課長時間内に終えていただきまして、予定どおりぴったりの時間に終わりました。ご協力ありがとうございました。ここで暫時休憩を取りたいと思います。

なお今回は、第1回目の検証委員会ですけれども、この後、12月18日予定で、第2回目の検証委員会を開催します。対象となる課は、総務課、町民福祉課、健康推進課、高齢あんしん課、学校教育課、税務課です。これらの課の所管に関する質問については、次回にお願いします。

(10分間の休憩を取った。)

(午後2時35分)

## (2) 質疑応答及び意見交換(検証作業)

(赤石議長)

では、議事を再開します。各課から説明をいただきました順番に関わらず、ご意見やご質問、また、提案でも結構でございますので、どんどん寄せていただけたらと思います。いかがでしょうか。

(A委員)

いろいろ説明を聞いたんですけど、思いつくままに喋らせてもらいます。まず最初に思いつくのが江光の問題です。江光ビルの跡地は、この5年間ずっと解体したままの状態、商店街はもとより近隣住民とか、江差にとっても中心的な場所なのでとても閑散とした感じがして、最近うちの周りも何軒か解体して更地が出来て、その5年間にずいぶんシャッターが閉まった所が増えてきたんで、たまたま今日が定休日という店がシャッターを下ろすと、一気にずっとシャッターだらけになってしまうという光景が出来てしまっ。一番やってはいけないことが、解体後そのまま放ったらかすっていうことだと思うんですよ。どんな事業を、どんな施設を、どんなものをあそこに作ろうか、賛否両論なんで、全員がいいというものは絶対にはいはずですし、とにかくあのまま放ったらかすっていうのは一番やっちゃいけないことだと思うんですけど、5年以上そのままになっているという、あその中央商店街というのは、近代化事業で道路を拡幅しようという事業だったんですけども、その中で商店街を形成する時に、江光とカネマツの2つを拠点として商店街を形成しましょう。拠点の二つがなくなった以上、当然、今のような結果になるのはわかっているんで、早急にここを空き地から何かの形に変えていかなきゃないって、今までの5年間の空白を埋めるように、早急に何らかの手を打っていただきたいなっていう、他人事ではなくてここに書かれている「自分たちごと」として、住民であろうが商店街であろうが役所であろうが、みんなでいい方向に早急に作っていきないうって思います。是非とも、着手してほしいなということです。

それから観光の所で、観光の事業をやる上でいつも気になっているんですけど、江差観光客の入り込みが30万人とか20万人とか、誰がどこで数えた数字、何でしょうかという気がするんですけども、開陽丸でカチャってやって、中村家でカチャってやって、追分会館でカチャってやって、一人に3回押してる場合もあるのかなとか、もうちょっと観光事業を進める上でちょっとシビアな、本当に観光で来てる人がどのくらいの割合で、江差にビジネスで来てる人が何人いて、何らかの用事で来てる人が何人いてっていう分析をしていった方が、よりの確な相手に合わせた対応になっていくんじゃないかなって。そのためには、どんな宿泊が、どんな食事が、どんな施設がっていうふうになっていくような気がします。

その中で、蝦夷山海という話とヒバの商品化というか「目につく化」なのかな。檜山郡なんで、もともとヒバの自生している北限の地がここだったということで、檜山郡で、しかもこのまちの大きな財力を形成していく上での基礎になったのがこのヒノキなんで、公共施設だけでなく歴まちだけでなく、一般家庭であろうが何であろうか、ヒバっていうものが日常的に目につく場所にどんどんあってほしいなっていうそんな感想を持ちました。

それと、蝦夷山海はどうしても地元の酒ということで、よそから来た人に対しても飲食店行っても我が家にも、いつもある酒であってほしいなっていう、もうちょっと生産性であったりとか町民に対しての、このまちに対する波及効果っていうものをもう少し確立してほしいなっていう気がしました。積極的に協力しますんで。

以上、適当にバラバラと言いましたけれども、あともう一ついいですか。江差の観光の中で今、横山家が、ちょっと宙ぶらりんな状態で、金丸家も上町でポツンと寂しそうにあるんですけども、所有者の状況もあるんでしょうが、江差にとって、あの施設が本当に必要だと考えているのであれば、関係権利者の皆さんのところ一人ひとりへ、もっともっとしっかり思いを伝えていった方がいいんじゃないでしょうかっていうのを感じていました。以上です。

(まちづくり推進課長)

まず最初に、まちづくり推進課所管として、旧江光ビル関係について答弁いたします。江光ビルは、間違いなく江差の商業のど真ん中でした。私も小さい頃、江光デパートへ行くときは、一番いい服を着て、一番いい帽子を被って出かけました。そういう昔のような賑わいをあそこでってのは、もう非常に厳しいってことは、全員の認識だと思います。

いかに、まちなかに人を動かすか、そこに目指してくるような施設をっていうことで、年明け2月頃には、商工会さん、地域の皆さんに「こんなの作りたいと思っているんだよ」というのをしっかり示しながら、来年度は基本設計で「この規模でこういう形で」というものを作っていきたいと考えています。

一足飛びに全部出来れば一番いいんですけども、実施設計を作るにしても、どういうものを作るのかという決定をしなければいけません。また、どうしてもこういうものを作るときは、補助金を活用することになって、その事務を年度初めから取り掛からなければいけないという状況もありますので、1年、2年で完成というのはなかなか厳しいのかなと思います。けれども、そういう姿が見えてくれば、絵でも見えてくれば、皆さんにも少しずつ明るくなっていただけるのかなと思いますので、そのように目指していきたいと思いますのでご理解願います。

(赤石議長)

2月ですね。楽しみにお待ちしております。追分観光課お願いします。

(追分観光課長)

私から観光客入込調査の関係をお答します。入込調査につきましては、毎年、上期下期でそれぞれの施設の入り込み、それから宿泊施設の入り込み、それと各イベントでの入り込みをまず集約します。そのうえで施設につきましては、それぞれ全部足しますと、先ほど言ったように1つ2つ3つ加算されている場合もありますので、平均的な部分というか観光客が巡回する割合を出しながら算出しているといった経過です。今、A委員からもありましたとおり、確かにおっしゃるとおり観光の割合がどのくらいなのかと言われると、非常にそこは私たちとしても欲しいところなのですが、従来の算出方法についても検討しなければいけないのかなと思います。

(赤石議長)

横山家の件について、社会教育課長お願いします。

(社会教育課長)

横山家は、ご存じのとおりご当主が亡くなられて2年半経ちました。この間、ご当主のご家族の方と、幾度となくお会いして交渉を進めてきております。町の所有とするためには、相続者の方々全員の同意がなければ進めていけませんので、現時点では、窓口となる方を通じて、話し合いを継続している状況にあるということのみお答えさせていただきます。何とか、横山家を将来的にも江差町が管理をして有効な活用方法、保存方法を図りながら、出来れば国の重要文化財の指定が受けられればということも含めて、交渉を継続してまいりたいと思います。

それと、金丸家です。実はもう金丸家については、12年間協議を継続している状況です。途中空白がございました。この金丸家についても相続が絡んでおります。状況的には、横山家と似ています。

こちらにつきましても、引き続き交渉していきたいと思いますのでご理解願います。

(赤石議長)

蝦夷山海等について、産業振興課お願いします。

(産業振興課長)

ヒバの関係と蝦夷山海。産地の関係だと思いますが、ヒバは、残念ながら、今、大きく切り出せるものが、なかなかないというのが現状で、間伐材を利用するのが第一歩かなと思っております。この3年間のスキームの中で、町内の一般家庭まで回せるかという、ちょっと私の中では自信がありません。まずは目に付くところから始めていきたいというのが、説明した趣旨です。

それと蝦夷山海の関係ですが、ネーミングはすごくいいんです。なかなか江差の飲食店にも出回らない実態がありますが、「新酒入りました」とか「江差の地酒あります」というような、そういう掲示から少しずつ進めていければと思います。ここは、商工会とか飲食店組合さんとタッグを組んで、そういう「消費イコール産地が光る」というような公式を作ればと考えておりました。

(赤石議長)

ぜひ、よろしくお願いします。せっかく来た観光客の方に、江差の地酒ということをご紹介出来ればと思いますので、町民の皆さんにもいろいろ協力をいただきながら、蝦夷山海を再度また認識していただいて消費していただければと思います。

B委員、いかがですか。

(B委員)

先ほど社会教育課長から、新たな総合体育館の建設の計画を是非との説明がありました。何月かちょっと忘れましたが、広報紙に「運動する場の共有」ということで江差町と上ノ国町とで連携協定を結んだ記事がありました。皆さん、上ノ国町の総合体育館自体を借りられるというように思っているかもしれませんが、実際のところ借りられるのは、トレーニング室とランニングコースとパークゴルフ場くらいだったと思うんです。で、逆に上ノ国町の方は、江差町の運動公園ですとかプールとかを借りられるようになっていると思います。上ノ国町に問い合わせたところ、体育館自体は、自分の町内の団体だけでいっぱいだったという回答でした。そういう状況にあることも考えながら、新しい総合体育館を建てるにあたっては、避難場所にもなるだろうし、いろんなイベントも出来るだろうし、野球場やサッカー場は冬は使えないけれど、体育館は年を通して使える。合宿とかにも使っていただければと思いますし、体育館建設のことについては、声を大にして言っておきたいと思います。

(赤石議長)

ありがとうございます。私も勘違いしていて、江差町民も自由に上ノ国の体育館が使えるのかなと思っていて、それなら全然安心だったと思っていたところなんですけれども、使える施設がトレーニング施設とランニングコースとパークゴルフ場のみということで、体育館そのものはなかなか難しいということを知りました。そういうことも含めながら、またこれからお話を進めて行かれるということです、良い方法が見つかっていけばいいなと思います。

C委員、あちこちにテイクアウトなんかも試されているようなんですけれども、その他の件でもよろし

いですが、日ごろ、まちの中を歩いてみてどうですか。

(C委員)

このような場所で、私いつもお話しさせていただいてると思うんですけど、郷土芸能の件なんです。やっぱり追分だとか、小学生には沖揚げ音頭だとか鮫踊りとか、あと獅子舞とか、そういうのをやらせているって話があったんですけども、実際、私が追分踊り保存会だからというわけではないんですけども、本当に後継者がいなくて困っている状況があります。この分だと「昔、追分踊りってあったんだってね」みたいな昔話になるんじゃないかなと思って。本当に、私が一番若手くらいの勢いでやってるんで。なので、出来れば追分踊りだけじゃないと思うんですけど、獅子舞だとか、そういうのも出来るだけ幅広く、小さいうちから慣れ親しんでいけるように出来ればいいんじゃないかなっていう思いはあります。

あと、先ほどB委員からありましたけれども、体育館の件は、私の周りの子どもがいる親たちからいろんな話は聞くんですけども、やっぱり大会だとかも江差町で出来るといいよねっていう話です。そういうのがあれば、他の町から、子どもを連れた親とかも来てくれるんでないか、少しは消費活動もあるのかなって思います。あと、ちょっと私、どっかでいつか話しがあったかもしれないんですけど、わからないのが旧生涯学習センターの利用状況。アスベストの関係もあると思うんですけども、壊すなり使うなり、なんか出来ないのかなと思います。以上です。

(赤石議長)

社会教育課長お願いします。

(社会教育課長)

総合体育館に関しては、なかなか私の立場から言えるような問題でないと思っています。そういうこともあって、総合体育館建設の是非の検討と書かせていただきました。まちには総合体育館がないわけで、旧生涯学習センターの体育館がなくなったかわりに、朝日の旧学校体育館を町民体育館として使っていただいておりますけれども、必要性は、担当課長としてみれば十分にあると思います。あとは財源的な問題、政策の優先度を踏まえて、やはり首長が決断する問題だと思いますので、私の段階では、そういうお答えにしたいと思います。

それと江差追分踊りについて、良い意見をありがとうございます。実は、江差町郷土芸能フェスティバルというものを、各郷土芸能を集めて文化会館で3年ほどやった経過があります。それはもう既にやっております。なぜやらないかといいますと、後継者育成に力を置きたいということで、各郷土芸能の保存団体に、後継者育成のための様々な取り組みに対して、補助金で支援しましょうという流れで、現在はそちらの方にシフトしています。今いる方々が、演じて町民に見せるというのではなく、やはり後継者の育成が一番必要だということです。江差追分踊りに関しても、ぜひ学校の方に、「こういうプログラムもありますよ」という情報提供をして、手が挙げた所には、C委員を講師として推薦させていただきますので、その場合はぜひ教えてくださればうれしいです。来年度積極的にPRしていきたいと思います。よろしくお願いします。

(赤石議長)

次、D委員いかがでしょうか。

(D委員)

全体的に令和2年度、3年度、4年度までの計画の実施が、全部書かれておりますけれども、意外と「左に同じ」みたいな計画になっているのも多く書かれていましてね。これ一体、いつごろ形になるんだろうっていうのが、皆さん見えたんだろうか。それが僕、一番気にかかっている、全てがですよ。全てが、これはどういうふうにします、ああいうふうにしますって。もう少し僕的には、「5年後にはこうなっているよ。」とか、10年の目標ですから、「令和2年度には、達成率5%の目標が3%、0%、10%だった。」とか、そういうのが、難しいと思いますが欲しいなと思いました。以上です。

(まちづくり推進課長)

実施計画全体の意見ということで、まちづくり推進課の方でお答えさせていただきます。こうやって、3か年先までの事業を出していくというのは、過去なかったんだろうなと思います。そういう中で、なかなか私たち職員もそれに慣れていないという部分があると思います。今のご意見で、右に同じじゃなくて、例えばその何%というお話もありましたので、次年度からは、そのへんの工夫、ステップアップしていくような、そういう計画に努めたいと思います。よろしくお願いします。

(赤石議長)

「検討します」ということが、一番簡単な言葉だと思いますけれども、やっぱり具体的に何を達成したいのかというものを書いていただくと、町民も納得するのかなと。「これをやりたいんだ。」「これをここまで達成するんだ。」というところを示していただくと、いいのかなというところでしょうか。

(A委員)

そういう意味では、産業振興課長から説明のあった「農業はこうなります。12年後にはこうなるんです。」ということは、これはとても素人さんでも「ああ、こうなるんだ」というのが、わかるわけですよね。そういうのが、他のものについても是非見やすいようにしていただければなと思います。難しいですけどもね。

(赤石議長)

貴重なご意見ありがとうございます。農業の話がありましたけれども、E委員いかがですか。

(E委員)

私からは、産業振興課長より説明がありました基盤整備の計画をきっちり成功させていただきたいというのが、一番大きなところなんです。それともう一点、蝦夷山海についてです。やっぱり販売を伸ばしていただかないと、私とその酒米を作っているんですけども、結局、経営的にも何のメリットもないっていうのが今の作り手からした現状で、もう少し大きなロットできっちり勝負出来るような販売体系を作っていただきたいということを要望して終わります。

(赤石議長)

コンバインをうるち米と酒米と切り替えるのに、米が混ざらないように、収穫を終えたあとに、すっきり機械をきれいにしてからじゃないと、うるち米と酒米が混ざってしまうということをお聞きし

て、非常にご苦労があるんだなということを知りました。それに見合う売り上げがなければ、続けていく気持ちも萎えてしまうというところだと思いますので、やっぱりこの倍くらいないとやる気が続かないというところですかね。

(E委員)

全くそのとおりです。

(A委員)

町の方で何か対応出来ないのですか。

(産業振興課長)

まず基盤整備。資料にあるとおり、水堀地区というのは、江差町北部地区700ヘクタールのうちの120ヘクタールを9年間で整備するという事です。25億7,000万円の概算事業費です。今のところ生産者さんが、これに3億2,100万円負担しなければならないことになっています。そうなりますと、農家の経営の中でまた借金が出来て、なおかつ区画拡大するという事は、先ほど言ったスマート農業の転換のために、もしかしたら家が1軒、2軒建つくらいの設備投資をしなければならないということなんです。ですからここは、町としてどこまで支援出来るかっていうことを、土地改良区さんともキャッチボールをして、なんとか少しでも負担軽減出来るように、予算ヒアリングの方に持っていきたいなというふうに考えていました。

それと蝦夷山海。たしか経済同友会で作られているかなと思っております。経済同友会の方々とも話をして、少なくとも域内流通をしっかりと、「江差の新酒が出来ました」とか、そういうような目に付くような形を取ればなと思います。

(赤石議長)

町内の飲食店に蝦夷山海が置かれて、地元の方も、町外の方も、みんなおいしいお酒が飲めて、結果、売り上げも上がって、生産者もニコニコになるみたいな感じになればいいのかなと思っております。これはやっぱり、観光客のためっていうところもありますので、観光の方にもお手伝いをいただきながら、皆さんで知恵を絞っていただければいいのかなと思いますので、どうぞご協力もお願いしたいと思っております。観光の話が出ました。F委員いかがですか。コロナでなかなか今、大変なところもあると思いますけれども、それに関わらなくてもけっこうですが、いかがでしょうか。

(F委員)

コロナの関係では、やはり影響が大きくて、単純に人が減ったとか、例えば、今年予定していたことがほとんど出来なくて、その代わりいろんな事が降ってきて、いっぱいいっぱいになっていると、そんな状況なんですけれども、総合計画もコロナによって事業の前提とか、もしくはKPIとかを大きく見直さなきゃならないところもあるのかもしれない。すごく大変なことを今、言ってしまったと思うんですけれども、これから同じ目標に、今までどおりの方針で良いのかどうか、観光なんかも、全国から幅広く集めようじゃなくて近場から集めようとか、マイクロツーリズムという単語が出てきましたけれども、そういうふうに少しずつ方針が変わってきているんですね。そのように、総合計画の方も状況に応じて、無理のない範囲で計画の見直しとまではいかないですけれども、微修正とか

を図っていけるといいのかなと思いました。

(赤石議長)

計画もそのとおりじゃなければいけないということではなく、先ほど古地先生の方からありましたけれども、皆さんで育てていくということですので、その場に応じていくというのは大事だと思います。観光の方から「こういうことを頼みたい。」だとか、「こういうふうに皆さんに協力を頼みたい。」ということがありましたら、どんどん発信していただければいいのかなと思います。観光は、稼ぎ頭ですので、ぜひ皆さん期待していると思いますので、ご苦労も多いと思いますけれどもどうぞよろしくお願いしたいと思います。それでは、観光にちょっと引っ掛かりますが、G委員いかがでしょうか。何か気になることとか。

(G委員)

ぷらっと江差で販売されている貝殻サブレが、今年たいそう人気があったというふうに伺っておりまして、きっと観光客だとか町民もお土産に持っていったりするのになあいう商品を望んでいたのかなというところで、今後もそういう商品、お土産もののプロデュースをDMOさんとかが積極的にやっていただけると、ラインナップとかもだいぶ変わってきて良いのかなと思っておりました。今年、観光客も減って観光バスもほとんど入ってこなかったんですけども、チャミセのほう売り上げがすごく減ったかというところでもなかったんですよ。近隣で行き場所がなくなってしまった方々が、ちょっとお茶を飲みに来ていただいたりだとか、函館方面、近場の乙部、上ノ国の方々がちょこちょこ複数回、足を運んでくださったりなんかしましたので、そういうところに今後の生き残りという部分で、コロナ禍に関してはあるのかなと感じました。

あと最後に、地域おこし協力隊のところの記述があったので、他の町だと結構独立したり起業したりという話を聞くんですけども、江差町からなかなかそういう感じで発展していったのかなと。私が見えてないだけかもしれないんですけども、そういった面で、そういう起業を、もっとバックアップ出来るような体制が出来ればいいのかなというふうに思います。以上です。

(赤石議長)

貝殻サブレは、自分のところの自慢をするわけじゃないんですけども、商工会の方で専門家派遣などをいたしまして、伴奏型支援ということでやらせていただいております。商工会の方も頑張っております。

(まちづくり推進課長)

協力隊は、この間7名入っていただきました。G委員が言われるように、本来、起業というところですけども、途中でお辞めになった方、ご結婚なさった方もいます。起業というところでは、これまで募集の範疇がなかなか厳しかったのかなと思います。どこまで出来るかわかりませんが、後継者がいない方と、本州、あるいは都会の方々とをマッチング出来るような体制が出来ればいいなとは思っていますが、まだ、それをしっかりやり込めるという状況ではありません。この度、産業振興の方で一人、商品開発の任務に就かれていた協力隊員で任期が終わった方がいます。その方に対しても、起業の支援をしたいという思いでいろいろとアプローチをしておりました。ただ、コロナ禍での退任だったものですから、残念ながら今、起業という状況にはなりません。以上です。

(赤石議長)

なお一層PRをお願いしたいところです。

今回は、福祉の方の説明がないんですけれども、H委員いかがでしょうか。

(H委員)

全体の説明内容として特段質問はなかったんですが、資料の中でも出てきておりました、コロナウイルスの対策の部分だったんでしょうか、軽トラ市を年3回。産業振興課さんの資料の中に入っておりましたけれども、軽トラ市3回開催という中で、うちがちよっと関連させてもらったことが一つあります。今年は追分大会も中止になりましたし、産業まつりもなくなったという状況の中で、共同募金運動をどうやって展開していくのか、悩んでいたところだったんですけれども、軽トラ市のちょうど3回目の開催が、全国の赤い羽根共同募金運動が始まってからだったものですから、急遽軽トラ市はどこで主催しているんだろうというところから調べて、役場だったんだというのが分かり、そこで一画を貸してもらいをお願いをさせていただきました。今日の資料にも掲載されていますが「エエ町、江差。」このロゴをどんどん広めていきたいと思いますという話は、総合計画策定審議会の中でもさせていただきましたが、今年、共同募金委員会では、有言実行して「エエ町、江差。」バッジを作りました。これは、500円募金なんですけれども、500円を募金していただけたら一つ差し上げるというような形で展開をしました。追分大会とか産業まつりがなくなって、町外から訪れてくださってる方々に向けてのPR活動がなかなか出来なかった中で、軽トラ市は地元の方、町内の方が多かったかなという印象なんですけれども、すごくたくさんの方々にご協力いただいたという印象でした。なんとか、外からというだけでなく、まちの中の人たちの協力を得られた。そういった視点もまた、必要なんだなということが今回、まだ今こういう環境下で何も出来てないけれども、良いきっかけになったのかなという印象でした。以上です。

(赤石議長)

私もいただきました。すごくかわいいバッジですので役場の一画や、他の施設とかでも出来ないんですかね。

(H委員)

実は、役場庁舎では、正面の町民福祉課の窓口のところに募金箱を置かせてもらっています。あと、今回初めてガチャガチャを置きました。100円玉5枚入れてガチャガチャってやると、これが入ったカプセルが出てくる機械を道の共同募金会から借りることが出来たんです。それを開陽丸に場所の使用の許可をいただいて、開陽丸っていつでも場所はぶらっとさんの横だったもんですから、ぶらっとの職員さんにも一緒に新聞取材を受けていただいたり、みらい機構さんにはいろいろとご協力をいただくことが出来て、何とか効果は得られたのかなという感触でした。ガチャガチャは、けっこう物珍しくて、子どもたちに人気だったそうです。

(赤石議長)

子どもの話もありました。I委員いかがでしょうか。

(I 委員)

まず、それぞれの課の説明をいただきましてありがとうございます。聞いてて、少し引っ掛かったのは、産業振興課長の説明して下さった「農業の工業化」。これは、なんで農業が工業なのって漠然とした疑問でした。これについては深い説明があると思うので回答は結構です。

今年は、江差は姥神祭りも追分もなく、先ほど追分観光課の説明の中に「稼ぐ観光」というのがありましたけども、全く稼げなかったんじゃないかなと推察しております。H委員の話の中にもありましたけれども、江差で新しいことだなってワクワクしたのが、江光デパートの跡地で軽トラ市というのを。初めてですよ。何回かやっておられたので、何日にやっていたのか分かればいいなと、とても新しい試みでいいなと思ったのと、かもめ島の上の映画会ありましたよね。誰がこんなロマンティックなことを考えたのかなと。自分は、たまたま時間の関係で行けなかったんですけども、素敵な企画だなって。後で文化会館の職員の方に「どうだった」って聞いたら「少なかった。」って。でも、少ないのに負けないで、こういう企画、新しいことを始めるのっていいなって思いました。

私は、幼稚園の職員ということから話しますと、江差に20年くらい住んでるんですけども、江差ってなんか、幼児だとか幼児を持つお母さんに優しくないというか、お金をかけてくれないなっていう漠然とした気持ちがあったんですね。じゃあ「どこなのか」と言われると、こういうところとは言えないんですけども、ここ数年私、子ども・子育て会議に出てるんです。私だけじゃなく保護者の代表も出てるんですけども、江差が子ども・子育てに決して何にもしてないわけじゃない。どんなことをしたら良い、予算を割いたりしていることが、初めてその会議に出て分かったんですね。だから驚いたり、これ全然、他のお母さんたちに知られてないっていう、これ私だけじゃなくて保護者もびっくりするんです。江差って、こんなにいろんなことしてくれてたんだって。だから、そういうのをもう少し浸透させていきたいなって。自分がその会議の委員なので、自分の役割としても、保護者会があった時に、そういうことを発信していきたいなっていう気持ちです。

普段、子どもにもお母さんにも「比べることは良くないよね。」っていう話をしているんですけども、比べたくはないんですけども、今年、子どもたちを連れて乙部の元和台に行ってきたんですね。そしたら、元和台も広場が前とすごく変わっていて、ものすごい遊具の充実で、比べちゃいけないよねって言いながらも、こんなに予算取ってるんだって、びっくりしました。ただ、遊具があるからいいとは思わないです。江差はすごい自然がありますし、かもめ島に連れて行って、貝殻拾いに行くと子どもは何時間でも夢中で遊べますんで、何か遊具があるからいいとは思ってないんですけども、せめて開陽丸センターの前の広場の遊具は、充実させてほしいなと。以前、あそこには、すごくいいジャングルジムがあったんですね。けど、木製のそれが、ささくれで子どもにトゲが刺さるということで撤去になったんですけども、傷んできたから撤去ではなくて、手入れをすればいいと思うんですね。定期的に。長く持たせることを考えてほしいなと。これは、子ども・子育て会議でも、ずっとあそこに遊具が欲しいと言いつけているんですけども、言い続けなければだめだと思うので、ぜひ開陽丸の広場に、子どもたちがゆっくと遊べる、すごく素晴らしい高価なものじゃなくていいので。ジャングルジムがすごく良かったんだと思いますね。あれで子どもたちが、ずっと遊べたので、工夫して、そういう何か子どもたちがイメージして、これしか使えないのではなくて、いろんなふうで遊べるようなものが、ぜひ一つ設置して欲しいなという願いです。以上です。

(赤石議長)

フェイスブックで町長が、前澤さん(インターネット衣料品通販大手ZOZOの前社長)に対して、子

どもの遊び場が欲しいんですっていうことを訴えて、当たれば少しもらえるみたいな。当たるかどうかは、全国ですから、なかなか難しいのかなと思いますが、お願いはしているということは、町長も十分理解しているんだと思いますけれども、これは担当課はどちらになりますか。

(まちづくり推進課長)

まちづくり推進課です。実は私は、今の担当になる前は追分観光課でした。観光の頃も、ぷらっとに人をたくさん呼ぶためには、子どもが行くとお父さんお母さんも来るし、あのジャングルジムは本当に良かったよねという声を聞いていましたし、私たちも、ぜひあそこに遊具をいう思いがあります。北の江の島構想の中で、町長は、子どもや若者、親子、そこをターゲットに集まるような場所にしたいと考えています。当然、そこには遊具というものが出てくると思います。しかしながら、先ほど旧江光デパートの説明をしましたが、デパート跡地の工事も令和5年度の着手予定としているところでして、少し先行きが長い話になってしまうのかなというのが、正直なところです。方向性としては、「持っている。」ということでご理解いただきたいと思います。

(赤石議長)

農業の工業化という話について、産業振興課長お願いします。

(産業振興課長)

はい。これは単純に「農業の工業化」という話です。スマート農業のキーワードだと思っているんです。最終的には、人間はオペレーターで終わっちゃうんだらうなということです。機械がすべて刈り取りから播種から、例えば水の管理も、全てAIがやるようなそういう時代が来るんだらうなということです。

(赤石議長)

私の方からもいくつか質問させていただいてもよろしいでしょうか。まず、農業の方で、そば粉のためのそばの増産はどういうふうになっているのでしょうかというところ。飲食店で加工しやすいニシンの下処理について、総合計画策定のときにも話題となっていたと思いますが、その後どういうふうに進展しているのでしょうかというところ。それからリフォームの継続が、令和4年も継続と先ほど見させていただきましたが、そこまで継続が本当に出来るのかどうかというところ。それから駐車場の看板なんですけれども「駐車場、ここです。」って、多分江差の中で大きく駐車場の看板あるところってないと思うんですよ。町外から日帰り、江差に行ってみようかなんて思っているような方なんかは、運転しながら駐車場を探すのは大変ですし、そういった観光客への駐車場用の看板をどのように考えていらっしゃるかという点について、ご質問したいと思います。担当課の方よろしくお願いします。

(産業振興課長)

そばの関係です。私の知っている限りでは、江差北部でそばを作付けしている方は、一人くらいかなと思っています。その方は、江差のそばの会のメンバーである生産者が作付けしているということで、あとは南部の方で1軒、椴川の方が作付けしていると思いますが、そばの増産はなかなか図られていないんだらうなという気がしています。

(赤石議長)

地元産品ということなので、その辺も力をいれていただければ、なお良いのかなと思いました。それからニシンの下処理についてはどうでしょうか。

(産業振興課長)

江差で獲れたニシンは、江差観光まちづくり協議会が買い取りして、ひやま漁協の冷凍庫に預かって、必要な時に必要な数だけ町内の流通に回したりしています。その中で一番ネックになるのが、下処理です。頭を取って、腹を裂いて、小骨を処理するとなると、今の若いお母さん方、若い方々には無理だということがわかって、浜のお母さん方が一生懸命やってくれているんですが、限界があります。このあいだ保育所でチャレンジしたのは、フードミキサーを使ってハンバーグみたいにしたものでした。小骨が、ほとんど皆無に等しいくらいのハンバーグが出来たんです。全保育園で食べさせたはずですが、非常に好評だったということですから、そういう機会を使いながら、先ほど言った「王道とチャレンジ」といった料理を考えていければ、消費が進むだろうと思います。

なぜ江差のニシンが、ろうそくニシンや、脂がなくておいしくないって言われるかってことが、少しわかりました。先般、水産指導普及所の所長さんが言ってました。「たまたま、江差の2月に網を入れて、ここで獲れた卵に白子をかけて種苗をつくるというコンセプトがあるから、あまりおいしくないという評価になる。太ったニシンが獲れる5月、6月に網を入れてみたら、おいしいものが入るよ。」ということです。小樽で太いニシンが獲れるのであれば、ここでも5月になれば獲れると思います。それを聞いて、漁業者にも確認に行ったんですよ。そしたら確かに、サクラマスの定置網にニシンが混獲されていると。ただ網目が荒いんで、大きいのが引っ掛かっているということですから、少し小さい網目にすると、小樽と同じような、脂の乗ったニシンが獲れるはずだということなので、来年5月の定置網では、1稼働くらいでもいいので、そういう実験をお願いしてみたいなと思っています。

(赤石議長)

そういう脂の乗ったおいしいニシンがあると、飲食店の方も扱いやすくなると思いますし、結局、同じことをいろんな人がやらなければいけないということで、どこかで一括でやってもらえると、なお、販売、加工が進むと思いますので、難しいでしょうけども、量産出来ればどこかに頼んで出来ると思いますので、めげずにいろいろと手を尽くしていただければなと思います。リフォームの件はいかがでしょう。

(建設水道課長)

現在、決まっているのは、令和3年度までとなっております。令和4年度については、まだ未定ですけれども、説明させていただいたとおり、町からの補助金としての持ち出しが、この6年間で7,000万円くらいあるんですが、事業とすれば4億1,000万円の事業になっているということで、ものすごい経済効果だなと思っています。担当課とすれば、建築リフォームですから、建築業者に限らず、板金屋さんから塗装屋さん、設備屋さんと、多方面にわたるものですから、ものすごく隅々まで効果が行き渡っているんだろうなと考えています。今後も、最初にも説明しましたとおり、まだまだ需要があるようであれば、その辺の状況をみながら検討していきたいというところです。

(追分観光課長)

駐車場の看板ということからすると、「ここは駐車場です。」と表している所はないと思いますし、元々の駐車場対策そのものが課題にはなるんでしょうけれど、町内には、これまで我々もイベント等をやるにしても大型の駐車場がなくて、特にまちなかのイベントの場合には、分散でいろんな施設を借りたりして対応している状況ですから、駐車場の確保ということは非常に難しいところです。実際に観光客が来た時には、特にいにしえ街道なんかは停める所がなくて、そういった場合には追分会館や役場の駐車場に停めていただくようご案内したりはしてるんですが、駐車場単体で提供している所はないので、それぞれが持っている施設の駐車場となると、一般的な開放はちょっと難しいのかなというふうに思っています。ですので、イベントですとか5月の連休の混み合うときに、一時的にそういったところの休みの日に、例えば公共施設の駐車場を貸してくださいというような形で対応しているような状況ですから、まず案内的なものとすれば、どこが停められるのかという大きなところも含めて調査しながら、ホームページなんかで、停められる所、示せる所を、案内していきたいなと思います。

あと、仮に北洋銀行さんの駐車場を例にとれば、平日の勤務中は無理だとしても、お休みの日に貸してもらおうという形がとれるとしたら、観光協会の方でも「さわやかトイレ」といって、まちなかのお店や事業所にご協力をいただきながら、トイレを観光客に貸していただく事業をやっていますが、各事業所の駐車場も同じような取り組みが出来ないものか、調査しながら進めていければと思います。

(赤石議長)

例えば北洋さんなんかは、「土日は開放してます。」とか、そういうのを北洋さんにお問い合わせ出来ればの話ですけれども、信金さんとか、そういう所を地図、マップに載せながら「土日のみ」とか「土日のみ開放します。」みたいなのが、そういうのが表示出来れば、なおいいのかなと思います。ぜひお願いしたいと思います。

最後に、外からの目というところもあるかと思いますが、J委員お願いします。

(J委員)

質問ではなくて、あくまで意見なんですけれども、外からというお話があったんですけれども、私は函館在住で札幌から3年前に来て、一番観光客目線かなと思うんですけれども、非常に来てみて江差っていいもの、まさにエエ町。いいものいっぱいあるにも関わらず、意外と知らなかったことが多いなって、函館の人でも知らなかった事が多いんじゃないかなって。例えば姥神さんの祭りは、全国的に弊社でも2回番組を作らせていただいて、有名にはなっていると思うんですけれども、それ以外にも横山家が、横山家の話もこういう会議でいつも言わせていただいでいて、本物があるまちってほとんどなくて、しかもその本物がなくなっちゃいそうなときに、その本物を守るために、先ほどA委員もおっしゃってましたけれども、その本物を守るために何が出来るかということ、頑張ってる本物を守って、なくなっちゃうものは守らなければいけないんじゃないかなというふうに。さっきもジャングルジムの話もありましたけれども、すごく思っていて、3年前に来た時にも、この横山家のことを言わせていただいたんですけれども、それがだいぶ進んできたような感じがしてほっとしているところです。その他にも郷土芸能ですとか、あぐり王国北海道という番組のプロデューサーをやらせていただいたときに、JAの江差の女性部の皆さんがこうれんを作ってらっしゃった。こうれんも全然知らなくて、ああいう伝統のものがあるというのはまさに江差なので、その伝統を守っていただ

きたいというのが一つと、こんなにいいものがあるのにみんなが知らないというのは、僕らマスコミのせいだと思うんですけども、もっとちゃんと伝える方法を僕らも考えなければいけないし、何かご協力出来ることがあれば、いつでも声を掛けていただければどんどん協力させていただきますし、C委員から「このままだと郷土芸能がなくなってしまう。」という話だったんですけども、ちゃんとみんなに伝えて、認知してもらうというのが大事なんじゃないかなと。今日出て、初めて知ったヒバの話とか知らないことも多かったので、やっぱり知らないことをその素晴らしさを、江差追分もそうですけど、伝える手段を考えて、出来ることは私にも協力させていただきたいなと思いました。

(赤石議長)

貴重なご意見をありがとうございます。皆さんから一つずつ質問をいただきまして、それぞれ回答をいただきました。全体を通して古地先生からいかがでしょうか。

(古地副委員長)

いつも江差の会議に出て面白いと思うのは、皆さんそれぞれ独自の視点で、ローカルな知が集まっている場所だなど。いろいろ話を伺いワクワクしてくるというか、先ほどのJ委員の話じゃないですけども、やはりこのまちには、いろんな立場の方が、「本物」を見てらっしゃるんだなと思います。このまちは、残っていかなければいけないし、そのための持続性のある発展を考えていかなきゃいけないと思うんですね。その力は、やはり皆さんにあるんだろうと改めて今日も感じております。こういう話もいつも申し上げてますけど、いつも毎回率直に感じる話ですので、ただ言っているわけではありませんというのをお伝えしたいと思います。そのうえで、5つくらい気づいたことを申し上げたいと思います。

一つは、D委員が先ほどおっしゃった3年後、5年後どうなっていくのかという、それこそ未来予想図みたいな話ですけども。あとは積み上がってるかですよね。そういう、まちの目指す姿っていうのは作りましたので、そこへ向かって、どう積み上がっているのかというのを具体的に見せていく、育てるということは、そういうことにもつながってくるんですね。その中で一つは、総合戦略の部分だと思うんですね。重点的に行う部分は総合戦略だと思いますので、この総合計画の中には総合戦略も組み込まれています。ですから、その重点施策をきちっとみんなで推していくというのがまず一つあると。そのあたりを、もう一度考えてみるといいのかなというふうに思いました。

そういう施策を進めていくうえで、今日の課長の皆さんからのご説明にもありましたし、委員の皆さんからの質問にも出てきましたけれども、やはり大事なことは、データを集めることです。これも私、毎回申し上げますけども、ローカルなデータをきちっと集めていく。もちろん国も集めていますので、産業振興課長からもありましたけれど、ビッグデータ、RESASのデータ、さらに民間企業が持っているデータ。江差に進出してきたいと思っている民間企業がいるのなら、そこからどのようなデータがとれるのかということを考えていただきたいですね。民間企業だけにデータを持っていかれたら、損です。せっかくですので、江差で商売するのなら、江差のまちに役に立つようなデータを出してほしいということをやっていただきたいなと思います。先ほどI委員からありましたけれども、幼児に関する政策。施策になった時に、漠然とやってないんじゃないかなという感じがある。それって多分、皆さんいろんな面で持っておられるし、江差全体の話をしても、漠然とっていうのがあると思うんですね。そういうところを、きちんとまずは知る。知るためのデータがあれば、知る場所があれば、知る媒体があれば、情報にアクセス出来るわけです。それこそ、先ほど後継者不足の話も

ですね、今、C委員がこうやってお話をされるので、ストーリーとして何うことは出来ますけれども、実際に今、何人いるとか、そのうちの年齢層ってどんな感じなのかなっていう話になった時に、何十代一人しかいません、20代がいませんみたいな話になると、さあじゃあこの郷土芸能は残していくべきなのかなのかどうなのかっていう議論をした時に、まさに社会教育課長がおっしゃったようなことの取り組みとのつながりみたいなことも、一つの線でつながってくるんじゃないかなというふうには思うんですよね。ですから、データを集めるのは大変です。観光客の話もそうですけれども、大変なんですけれども、もちろんすべてリソースが無限にあるわけではありませんので、少なくとも、出来る範囲からでもちょっと集めていくってことは大事なんだろうなというふうに思います。それに関して言うと、皆さんに、今、配布しました第1期総合戦略の取り組みの概要版ですが、この総合戦略というデータっていうものを、小学校高学年くらいでもわかるような形でお見せをしています。こういう形で、データを少しずつ、何を総合戦略でやってきたのか、その結果、何が生まれたのかっていうことをきちっと示していくっていう機会も、これはしつこく、広報は読まない人もいるかもしれませんが、しつこくいろんな媒体を使って、先ほどの赤石委員長の話ではないですけども、情報はしつこくいろんな所に出した方がいいと思います。あと、例えば公共事業の話で、先ほど住宅のリフォームみたいな話もありますけども、域内の経済波及効果がありましたという話がありました。今、観光の話で少し出ていますが、様々な公共事業等についても、それがどれだけ地域の経済に回ってきているのか。もちろん全部というわけにはいかないと思いますけど、そこを高めていく努力をするということも出来るのかなと思います。それもだから、データだと思うんですね。もちろん、様々なインフラを長寿命化するという事は大切なことです。その結果、地域の経済に、どういうふうに地域でお金が回ったのかだとか、作業員さんが何泊ここに泊まっていたいて、どういう消費活動をされて、いくら使われたのかなど、ざっくりでもいいので、そこから出してみるというようなことを、やってみても面白いんじゃないかなというふうに思います。

3番目ですけど、今日はちょっとあまり話が出なかったんですが、一つ今回、総合計画の中ではSDGsの考え方を入れるということがあります。多様性と包摂性という話がありますけど、今後、総合計画を進めていく中で、多様な力をどう使っていくかっていうこと、例えば、今まで眠っている力はないかというようなことも含めて、考えていけるといいのかなというふうに拝聴していただきました。

最後に、具体的などころに入っていきますけれども、総合体育館の話が出てきました。私もB委員の話を伺うまで、上ノ国との協定で良かった良かったと思っていたんですけども、今、圏域でいろんなことをやっていくというのは、国も進めている考え方の一つだと思うんですけども、でも今、具体的に伺うと、思うようには使えない。江差町でも総合体育館が欲しいよねってなった時に、まさにどういう計画を、「是非」っていう社会教育課長の話につながってきますけれども、どういう総合体育館を作るのか、コンセプトは何なのか、今までと同じものでいいのか。一つ例を挙げますと、皆さん良くご存じだと思いますけど、岩手県の紫波町に「オガールプロジェクト」というのがありますけれども、紫波駅前前で図書館を中心にまちづくりをして、岡崎さん（岡崎 正信氏：オガールプラザ(株)代表取締役）という方がやられてましたけど、その岡崎さんが関わって、一つ紫波で体育館を作ったんですね。その時にいろいろありました。それこそ、野球場を作れって話もあったんですね。野球をやってる人口が多いからだと思うんですが。岡崎さんは、あえて何を作ったかというバレーボールに特化した体育館を作ろうと。オリジナリティを出した方がいい、オリンピックで使えるフロア設備のものを作って、経費を抑えながらやったらいいんですけど、その結果、何が起こったかという、

日本代表が合宿に来ました。カナダのチームが合宿に来ました。イタリアのプロリーグとつながるようになりました。そうやって、様々な関係人口を増やすことが出来たということがあるようです。そういうことも、コンセプトを考えた時にどこにでもあるような体育館をつくるのが正しいのか、ということも考えていただきたいというふうに思います。

最後ですけれども、ひとつ本物というところともつながってきます。地域性っていうのは、総合計画の中でも謳われている一つのコンセプトだと思うんですけれども、外の視点でいろいろ申し上げますが、ちょっと無茶な部分も申し上げると思うんですけれども、例えば蝦夷山海に関して言えば、私の希望としては、やはり江差町内で作れるような地酒にさせていただきたいっていうのはあります。これは、無茶な願いかもしれませんが、今まで醸造されている所との関係性もあるかもしれませんが、同じようなことは、実は函館でもずっとありまして、皆さんご存じのとおり、今、函館でも、ようやく蔵が建つというようなことに、蔵が建つというか酒蔵がやってくるという話になってきています。なぜそれを申し上げるかというと、ワインでいうと「テロワール」という考え方が、特にフランスでは、地域で採れたものを地域の材料で作って消費をしていくっていう、それはやっぱり本物を目指すやり方だと思うんですね。今の段階で、蝦夷山海はこういう状態でおいしいお酒が出来ているかもしれませんが、外の人間として欲を言わせていただくと、ほんとに江差の水、お米で作ったものを飲ませていただくと嬉しいなと思いますけれども、それは10年で出来るかどうかわかりませんが、なぜそれを申し上げるかというと、やはり江差は、本物が似合うまちだと思うんです。函館市の中央図書館で松村隆さんが講演されたときに、「江差は、本物が似合うまちだ。」ということは何回もおっしゃっていたんですね。私は、その言葉がすごく心に響いて、なぜ私が江差に関わりたいと思うのかは、そこだと思ったんです。ですから、そこをとことん追求していただきたいなと、皆さんの話を伺っていて、伝統とか郷土芸能とかそういう話もあるでしょうけれども、まさにジャングルジムでもそうです。日々の暮らしの中で、江差の本物は何かということ、皆さんと皆さんが関わっている方とお話を進めていただければ、ここで作った、まちの目指す姿につながっていくんじゃないかなと感じています。ぜひ私も、お力になれる部分で考えていきたいと思っていますので、一緒に育てていきたいと思います。ありがとうございます。

(午後3時45分)

## 8 その他

(赤石議長)

最後に大きな宿題が出たなと思いますが、ありがとうございます。質問と回答につきましては、ここで締めさせていただきたいと思います。

最後に、その他の事項として、委員及び事務局に何かありますでしょうか。

次回の日程について、事務局お願いします。

(事務局)

次回の日程ですが、12月は皆さんお忙しいでしょうけれども、もう決めていきたいと思ひまして、提案をさせていただくことにしました。冒頭の会長挨拶にもありましたけれども、12月9日が議会でするので、その翌週、12月18日の金曜日になりますけれども、今年度最後の検証委員会を開催したいと思っております。第2回目は、今日の課長方は終わりまして、そのほかの課と入れ替わりになります。

これで、役場の全施策分野の一通りの説明が終わりになります。18日は、午後からで考えておりましたが、今日のように1時半がいいのか、若しくは3時からがいいのか、皆さんにお伺いしましょうかということで赤石会長と予め相談しておりましたので、ご確認の方をお願いします。

(赤石議長)

どうでしょう。皆様、18日ということで日にちが決まってしまうんですけども、時間の方は1時半開始か3時開始。どちらか都合が悪いというようなお話がありましたら、出していただければと思いますが、どうでしょう。なるべくたくさん委員の皆様に参加いただきたいと思っております。どちらでもよろしいですか。

(どちらの時間帯でも良い旨の意見あり)

(事務局)

では、会長、副会長とも相談させていただいた上で、また改めてメールなどで連絡を差し上げたいと思いますのでよろしくお願いします。

(赤石議長)

委員会の今後の予定ですけども、今回、検証委員会ということで、1回目と2回目で終わりますよね。この後は、委員の皆さんはどのような心づもりでいけばいいのか、事務局お願いします。

(事務局)

これまでの通知文でもお知らせしたとおり、まだ今年度始まったばかりの第6次総合計画ですので、今日と12月18日は、実施計画の計画内容。方針であるとか、スケジュール感だとか、このあたりについてのご意見、ご要望、ご指摘などをいただく、今年度はそういう検証委員会です。

いよいよ来年度以降は、実績、成果、そういうものが1年1年積み重なっていきますので、来年からは、今日のように計画内容についての審議とともに、1年を振り返っていただいて、どうだったのかというご指摘をいただきたいというふうに思っております。概ね1年に1回ずつやっていきたいと思っておりますので、それを当面、前期計画の5年間の成果に対して、どのような取り組みがなされたのかという検証を積み上げていきたいと思っております。そして、計画が育っていくというようなことで結んでいきたいなと思っておりますので、よろしくお願いします。

## 9 閉会

(赤石議長)

では、来年の同じくらいの時期に、実施計画がどの程度進捗しているのかどうかを確認する会が、予定されているということですね。委員の皆様、第6次総合計画がどのように進んでいるのかを意識しながら、来年の今くらいにまた再会してということですので、よろしくお願いします。

以上をもちまして、第1回検証委員会を終了したいと思います。本日はどうもありがとうございました。

(午後3時50分)